

国連女子差別撤廃委員会

## CEDAW委員が来館

— CEDAW×関西女性 交流会 in クレオ大阪 —

CEDAW(国連女子差別撤廃委員会)委員の、アルナ・デヴィ・ナラン委員(モーリシャス)、ジュノババ・ティシェバ委員(ブルガリア)、タマーデル・アル・ラマー委員(サウジアラビア)が、12月13日にクレオ大阪中央に来館されました。

女子差別撤廃委員会は、「女子差別撤廃条約」の進捗状況を確認するために設置された国連の機関で、条約締約国から得た情報を基に、提案や勧告を行っています。今回は、外務省の招へいプログラムで3人の委員が来日されました。草の根のNPOやNGOなどの活動を知り、対話や交流を図る機会を提供したいと外務省からお問い合わせがあり、クレオ大阪中央で受け入れをしました。

3人の委員は、出身国ではそれぞれ最高裁判事や労働省の副大臣などを務めておられます。委員としては、今回のような様々な機会を通じて、各国の問題を共有し意見交換することで、その現実的な解決方法を考えて勧告などを行っています。

クレオ大阪では、男女共同参画の拠点としての日頃のネットワークを活かして、関西で人権問題やジェンダー平等をテーマに取り組んでおられる様々なNPOやNGOなどの団体の皆さんや学生の方々に呼びかけ、交流会を開催しました。



団体の皆さんによるリレースピーチを行い、障がいのある女性の複合差別やLGBTの課題、性暴力救援センターやDV被害者支援の取組み、協議離婚における課題、男女間の賃金差別の問題など、様々な人権やジェンダーに関する課題提起がなされました。

委員の皆さんからは、より良い社会を共に創ってほしいと、力強いコメントとエールをいただき、ジェンダー平等の社会の実現に向けて、親しく交流しながら実りの多い時間となりました。



左から、タマーデル・アル・ラマー委員、アルナ・デヴィ・ナラン委員、ジュノババ・ティシェバ委員

## ● 委員からのコメント(要約)

- 皆さんは条約の事をよくご存じで、問題意識を持ちながら活発に活動されておられることに感銘を受けました。日本で実際にどのようなことが起きているのかよく理解できました。
- これからも各々の問題を抱えた人たちの代表者として活動を続けてください。NGOなどの皆さんの活動が社会に変化をもたらします。活動を続けることで最終的には問題が解消すると思います。問題の解決には、皆さんの支えが非常に重要です。私たちも必要な働きかけをしていきます。
- 今回、若者や男性も参加しています。若者も頑張ってください、若者が育っていくことを期待しますし、男性がこのような問題に関わっていくこともとても重要なことだと思います。
- 私たちは、常にNGOの方々の意見を慎重に聞いています。色々な問題がありますが、どれが解決されたのか、解決途上のものは何か、勧告の実施状況などについて、報告書をまとめる際には優先順位をつけながら、実際に起きている問題に焦点をあてて、具体的な事例を出して報告してください。



主催 クレオ大阪中央  
(大阪市立男女共同参画センター中央館)  
(一財)大阪市男女共同参画のまち創生協会  
国連ウィメン日本協会大阪